

C&C

Care & Communication

ケア&コミュニケーション

P1-2

INSIDE REPORT



地域に根ざした
質の高い診療を目指し、
スタッフと共にレベルアップ

あすまデンタルクリニック 院長
工藤 東 先生

P3-4

DOCTOR'S TALK



専門の歯周病治療や審美を
重視しながら、居心地のいい
身近な歯科医院を目指す

まつおか歯科医院 院長
松岡 明宏 先生

P5-7

THE FRONT LINE



親子3人の専門を生かし、
チームワークで
次世代の歯科医院を築く

医療法人白翠会 佐藤誠歯科医院
佐藤 誠 先生
佐藤 剛 先生
佐藤 潤 先生

SASAKI

<http://www.sasaki-kk.co.jp>

地域に根ざした質の高い診療を目指し、 スタッフと共にレベルアップ

あずまデンタルクリニック 院長 工藤 東 先生

青森県の「あずまデンタルクリニック」は、りんご畑も点在するのどかな地域にある。開業から10年、院長とスタッフが試行錯誤しながら、技術とサービスを磨いてきた。その歩みをうかがってみた。



工藤 東 院長

勤務医を経て、 故郷での開業を決意

あずまデンタルクリニックがあるのは工藤東院長の故郷、弘前に近い平川市。大学卒業後、近隣の歯科医院で勤務した後開業を決意した。

「開業前から自費診療がない地域だとは聞いていたのですが、実際に開業してみて、その通りでした」と苦笑する。

車がないと生活に不自由する地域のため、患者は遠方からも通ってくる。しかし、もともと歯科医院が少ないこともあり、地域住民の歯科衛生に対する意識は高いとは言えなかった。

「開業医の使命は、地域医療に貢献することです。自費診療がゼロに等しい場所でも、歯科医師が質の高い診療を提供することで、患者さんの意識は変わってくるはず。逆に意欲がかき立てられました」

保険診療はもちろん、たとえ月にたった一人の自費診療の患者であっても最良の診療を提供しよう。その決意を胸に、開業2年目から東京などさまざまな勉強会に通い始めた。

スタディグループで 開業医の基礎を学び直す

現在、工藤院長が学ぶスタディグループは、「東京SJCD」。勉強会に参加して、工藤院長は、「最適な治療」がどういものなのか、初めて知ったと話す。

「たとえば、ペリオの治療です。これまで自分では正しくできていたと思っていました。でも、歯周外科の知識も不足し、スケーリングも正しくできていなかった。学ぶことが山ほどありました」

時間を見つけては勉強会に参加した工藤院長は、一方で、

開業医としての喜びも感じるようになっていった。学んだことを臨床に生かすと、その結果がしっかりと成果として現れることを実感したからだ。

一例が印象のとり方だ。それまで大学などでよく利用し、親しんでいた材料を深く考えずに使っていたが、どの材料がいいのか、なぜその材料なのか、改めて勉強してみると、印象に対する意識も変わってきた。材料の選択から最適なものを選ぶようにしてみると、精度も上がり、よりピタッとマッチする技工物が仕上がるようになったのだ。

「勉強したことを患者さんに還元し、一生懸命、取り組んでいくと、患者さんにもそれが自然と伝わるんですね。強くアピールしなくても保険診療と自費診療の違いが徐々に浸透してきて、自費診療も増えてきました。現在は矯正も含めて、1割が自費の患者さんです」

つねにベストの診療を 患者に提示し、努力も重ねる

あずまデンタルクリニックに通う患者層は、女性が多い傾向はあるが、子どもから年配者まで幅広い。農業に従事している人も多く、春と秋の農繁期には患者数が減るものの、冬は予約がかなり先になるほど混雑する。

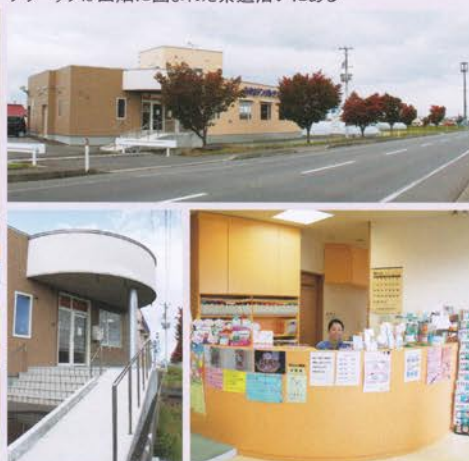
忙しい毎日だが、工藤院長はつねにベストの治療を患者に伝えるようにしている。

「最良の治療もしっかりと提示することで、患者さんにとっては選択肢が増えます。その上で、実際に治療を受けてみると、噛みやすさや歯肉の状態の違いも実感できます。患者さんにはそうやって自分で選んだり、実感していただくことがじつは

待合室の窓からは、りんご畑や山々が眺められる



クリニックは田畑に囲まれた県道沿いにある



スロープのある入口

木目調の受付まわり

診療室



オベ室も兼ねた診療室



チェアを色分けした半個室タイプ

メンテナンスルーム

CTも導入

とても大事なんですね。説明をていねいにする事で、患者さんのモチベーションが上がり、定期健診を受ける方もかなり増えてきました」

工藤院長はよりいっそう診療のレベルを上げたいと、自身の技術の向上に加え、機器の充実にも目を向ける。マイクロ



スコープとCTを導入したのも、精度の高い治療に欠かせないからだ。「一気に揃えることは難しいので、講習会で学んだことを実践するために

必要な機器をその都度、導入しています。将来的にはCAD/CAMも導入したいですね」

スタッフ教育にも力を入れ、 医院全体でレベルをアップ

あずまデンタルクリニックでは、スタッフ教育も重視している。常勤の歯科医師が工藤院長と奥様の百恵さん二人のため、スタッフの力が治療の質にも大きく関わるからだ。

「患者さんが増え、私が説明する時間がなかなか取れなくなってきました。そこで、受付担当に歯科コーディネートの勉強をしてもらい、コーディネーターとしても活躍してもらっています」

コーディネーターを設けたことで、患者も希望を伝えやすくなり、費用など聞きにくいことも質問しやすくなった。工藤院長も治療に専念できるようになり、診療がスムーズになったという。

また、ホワイトニングコーディネーターの資格を持つ歯科術

生士もいる。資格を取得させるのは、たとえ処置数は少なくても、きちんとした治療ができる知識と技術、そして責任感をスタッフには持って欲しいからだ。

「勉強したいスタッフには講習会の費用を持つことで積極的に応援しています。そして勉強してきた内容は必ず院内で発表してもらいます。ただ、無理強いはいしません。自立心を持ってもらうためにも、自主性を大切にしたいのです」

開業から10年、試行錯誤もしながら、成長してきたあずまデンタルクリニック。その歩みは、おだやかな工藤院長の雰囲気そのままに、誠実で着実なものだった。

Profile

- 1995年 北海道医療大学卒業
- 1995～98年 清藤歯科医院勤務
- 98～2002年 佐藤歯科勤務
- 2002年 あずまデンタルクリニック開業

工藤 東 先生

あずまデンタルクリニック

住所:青森県平川市柏木町東田313-8 TEL:0172-44-0648
HP:<http://www.azuma-dc.com/>



工藤院長と奥様の百恵さん(右隣)、スタッフの皆さん



マンションの1階にあるまつおか歯科医院



椅子がゆったりした大きさの待合室

専門の歯周病治療や審美を重視しながら、居心地のいい身近な歯科医院を目指す

まつおか歯科医院 院長 松岡 明宏 先生

神奈川県川崎市新丸子に2年前に開業した「まつおか歯科医院」。専門の歯周病治療と審美を重視し、「セレック」も積極的に活用している。地域に親しまれる歯科医院になるため、どんな点を重視しているのだろう。



松岡 明宏 院長

兄や知人の影響で 歯科医師を目指す

大学病院で研修医を1年、新宿や青山などの歯科医院で院長や副院長を務めた松岡明宏院長が開業したのは、東横線の新丸子駅から徒歩3分ほどのマンションの1階。間口が広く、やわらかな色合いの白を基調とした居心地のいいクリニックだ。

愛媛県出身で三人兄弟の末っ子という松岡院長が歯科医師を目指したのは、兄の影響が大きい。高校時代は建築家に興味を持っていたが、兄が医学部に入学したことで、医学の道に目が向いたのだという。

「子どもの頃から祖父の知人だった歯医者さんのお宅へよく遊びに行っていたんです。虫歯が多かったので、治療も受けていました。子どもは歯科医院を嫌がるものですが、私は逆です。使っている機械や模型を見るのが楽しくて、治療も苦ではありませんでした。そんな思い出もあって、歯科医師を目指したのです」

治療がわかりやすく、 リラックスできる歯科医院に

開業にあたって松岡院長が内装で重視したのは、リラックスできる空間にすることだった。歯科医院を訪れる患者は、治療の必要性を理解していても、多少の恐怖心は抱くものだ。緊張

感をほぐし、リラックスした気持ちで治療を受けて欲しいと松岡院長は考えている。

そのため、診療室はプライベートも重視した完全個室スタイル。マンションの1階という限られたスペースながら、ゆとりがある。ユニットも幅が広く、ゆったりとした座りやすいタイプを選んだ。

一方で、待合室などに治療を解説した張り紙などはしない。資料にできるだけ頼らず、松岡院長がきちんと口頭で説明するほうが、患者の理解度は深まると考えているからだ。「診療内容が分かりやすいように、個室の壁に掛けているモニターはサイズの大きい24インチを選びました。ときにはアニメーション動画を使って説明することもあります」

治療に用いる水の浄化システムや消毒機器も最新機種を選択。「思い通りの歯科医院ができた」と松岡院長は話す。

すべての歯科治療は 歯周病の治療から始まる

松岡院長の専門は歯周病。研修医時代に指導を受けた歯科医師の専門が歯周病だったことから、自然と歯周病に深く関わることになった。

「勉強すればするほど、歯周病の大切さを痛感します。歯周ケアは、歯科治療すべての基本です。歯を支える土台がしっかりしていなければ、どんなに高価なインプラントを入れても長持ち

しません。歯科医院での治療やメンテナンスはもちろんですが、患者さんにも毎日のケアを大切にしたいと考えています」

初診時は菌石やプラークが多かった患者が通院し、治療を重ねる過程で口の中がきれいになっていく。同時に行う歯磨き指導によって、日々のケアが上手になり、歯茎が締まってきれいな色に変わっていく。その変化を観察できるのは、歯科医師としてやりがいを感じる瞬間だ。

「私が勤務医時代、院長を務めていた青山のクリニックは、歌手やモデルさんなど、芸能人の方も数多くいらっしゃいました。口のケアに人一倍こだわる方たちですから、治療の質にも厳しい目を持っています。そうした環境で治療に当たることで、私自身のスキルアップにもつながったと思っています」

そして今は、培った知識と技術をさらに多くの患者に広げていきたい。そう考えて、日々の診療に当たっている。

「白い歯」のニーズに「セレック」も駆使して応える

まつおか歯科医院の患者は10～50代の女性が多い。近隣の住人が中心だが、なかには勤務医時代の患者も通っている。女性の多くが望むのは、やはり健やかな美しさ。松岡院長は、その気持ちを大切にしたいと、審美にも気を使っている。

開業時から「セレック」を導入したのも、安価で白い歯が入れられるシステムを整えたかったからだ。

「セレックを使えば1本の価格を歯科技工所に出す価格の3分の1ほどに抑えられます。主婦の方でも『これなら入れられる』と安心していただける価格にしたかったのです」

セレックのミリングユニットを入り口の正面に置いてあることもあり、

入り口の正面にあるセレック



患者の関心は高い。予想以上に本数は増えており、現在は年間300本ほど、セレックで提供している。

松岡院長は、将来、都内に審美歯科の分院を持ちたいという夢を抱いている。患者が健康に美しく変わっていく姿をもっと広げていきたいからだ。

とはいえ、松岡院長が大切にしているのは、歯科医院への親しみやすさ。そのために患者や地域とのコミュニケーションも積極的に深めている。まったく土地勘がない新丸子だったが、開業してからは、飲食店などを頻繁に利用し、地元の人たちとの交流も図っている。その縁で新規の患者を紹介してもらったこともあるという。

「私が子どもの頃、歯医者さんに親しみを感じたように、患者さんには気軽に足を運んでもらいたいと思っています。悪くなってからではなく、定期的にチェックすることで歯の病気は防げるものです。歯科医院を身近な存在にすることで、地域のデンタルIQをさらに上げていきたいですね」

落ち着いた雰囲気受付



スペースが広い個室タイプの診療室



照明が美しい廊下 ゆったりしたユニット

Profile

松岡 明宏 先生

- 2000年 日本歯科大学卒業
- 2010年 まつおか歯科医院開業
- 日本歯周病学会会員
- 日本抗加齢医学会会員
- 日本先進インプラント医療学会会員
- 新宿モノリスデンタルセンター非常勤講師

まつおか歯科医院

住所:神奈川県川崎市中原区新丸子東1-832-8-1階
TEL:044-750-7385
HP:<http://www.matsuoka-dc.com/>



松岡院長とスタッフの皆さん

親子3人の専門を生かし、 チームワークで 次世代の歯科医院を築く

医療法人白翠会
佐藤誠歯科医院 佐藤剛 理事長 佐藤潤 院長 理事 佐藤誠 先生

岩手県盛岡市にある「佐藤誠歯科医院」は、30年近く歴史のある歯科医院。今年からご子息のお二人が加わり、専門を生かして診療に当たっている。三人のドクターはどのように協力し合っているのだろうか。



理事 佐藤 誠 先生



佐藤 剛 理事長



佐藤 潤 院長

開業から約30年、 診療体制の新たな節目を迎える

佐藤誠先生が歯科医院を開業したのは1983年。当時は患者数が減少し始めた一方で、歯科医師の数が増え、開業医も増えている時期だった。

「すでに周囲には歯科医院が多くあり、開業から3年ほどは大変でした」と、誠先生は当時を振り返る。今も変わらない診療方針の基礎である「無痛診療」を徹底したこと、午後8時まで診療時間を伸ばしたことで患者数は徐々に増えていった。周囲は住宅街で会社勤めの人も多く、夜しか来院できない患者も多かったからだ。

「歯科医師は私一人。歯科衛生士3名、受付1名、歯科技工士1名でスタートしたのですが、患者さんが増えてからは休み時間がなく、1日の自由時間が1時間くらい。ありがたいことですが、風邪で熱が出て休めませんでした」と懐かしそうに微笑む。

開業時から院内に歯科技工士を置いたのは、保険診療の患者も多く、勤務医時代から診療に欠かせないとの考えからだ。

開業から順調に成長し、約30年が経過した今、新たな節目を迎えている。誠先生の長男である剛先生と次男の潤先生が診療に加わったのだ。

地方も東京も変わらない 診療ができる環境に

先に佐藤誠歯科医院に戻ったのは、次男の潤先生だ。福島にある奥羽大学歯学部附属病院で歯科麻酔医としての研鑽を重ね、2010年から勤務している。

長男の剛先生が勤務するようになったのは、2012年3月から。岩手医科大学を卒業後、秋田の勤務医を経て、東京のインプラントセンターに勤務。専門のインプラントと審美の技術を磨いて、戻ってきた。

父と同じく歯科医師の道歩んだ二人。さまざまな経験を経て、父の元に戻ったのは、どのような理由からなのだろうか。「予想はしていたのですが、実際に戻って確信したのは、地方都市も東京も患者さんの意識はあまり変わらないということです。インプラントもご存じですし、歯科衛生への意識も高い。今の時代、場所にこだわらず、東京と同じ水準の歯科診療が求められる時代になってきています。歯科医師としてさ

らに先を目指すなら、故郷に帰っても東京と変わらずにできると思ったのです」と、剛先生は話す。

とくに盛岡は東京と新幹線でわずか3時間の距離。地元には先輩も多く、歯科技術を磨く機会も東京と遜色がなく得られる。必要があれば、東京にセミナーへの参加もそう難しくない。

そもそも二人が歯科医院を目指したのは、誠先生の存在があったからだ。

「小さい頃から父の働く姿を見ていて、将来は歯科医師しかないと考えていました」と剛先生が言えば、「私は兄がすでに歯科大に進んでいたんで、自分は歯科技工士もいいな、と思っていました。小さい頃は自宅と医院が一緒だったので、診療を間近に見ていましたし、自分で歯を作ってみたかったです。その後、歯科医師になれば、歯科技工もできると考え直し、歯科大に進んだのです」と、潤先生が話す。

父の背中を見て育った二人が、「地域に根ざした歯科医院を目指すなら、住み慣れた故郷で」と思うのも自然の流れだった。

担当制と専門を生かして 診療を分担

開業時、佐藤誠歯科医院は自宅と同じ場所で診療していたが、7年ほど前に道路拡張工事のため、現在地に移転。そして今年、剛先生の勤務開始をきっかけに、思い切って改装した。

「一番、変えたかったのは、診療室を個室化すること。以前は、父一人でしたから、オープンな環境のほうが動きやすかったのですが、ドクターが3人になると、それぞれ診療スタイルも似ているようで違います。最近は患者さんもプライバシーを重視されますし、個室化は必然でした」(剛先生)

歯科衛生士も各ドクターにつく担当制にした。個室の配置は、一番入り口に近い部屋を誠先生の専用にした。

「私の患者さんは長年、通ってくださっているため、年配の方も少なくありません。移動の負担を減らすためにも、入り口に近い場所を私専用の個室にしました」(誠先生)

患者の診療も担当制だ。以前から通っている患者は誠先生が担当。新規の患者は、症状や予約状況を考慮して、3人で分担している。また、誠先生は長年の経験から一般歯科、とくに補綴関係、剛先生はインプラントと審美、潤先生は麻酔と、それぞれ専門がある。そのため、症例によっては、ドクター同士で相談したり、診療の一部を分担することもある。

幹線道路も近い佐藤誠歯科医院



落ち着いた木目調の受付と待合室



診療室1



診療室2



診療室3



理事 佐藤 誠 先生



佐藤 剛 理事長



佐藤 潤 院長



スタッフの皆さん

将来は兄弟で力を合わせ 歯科医院を盛り立てる

改築から間もないこともあり、佐藤誠歯科医院は発展途上の段階。これから、さらなる充実も予定している。

その一つがオペ室の完備だ。現在もオペ室に使える部屋は用意されているが、剛先生が戻り、インプラントの件数が増えることが予想されることから、より充実した設備の専用室を設けようと考えている。

「ライブオペや講習会ができるセミナースペースも考えています。私自身、まだまだ学びたいこともありますし、逆に後輩たちに知識を伝えたい部分もあります。そのための拠点に

なるように歯科医院を育てていきたいのです」(剛先生)

現在は3人体制だが、将来的に誠先生は息子達に歯科医院を譲りたいと考えている。その布石として、今回の改築も息子たちのアイデアを多く取り入れている。

「息子たちに全面的に任せながら、手伝うことがあれば補助していきたい」と誠先生は話す。

頼もしい息子たちに支えられ、次のステージに向かって、新たなスタートを切った佐藤誠歯科医院。誠先生の長年の経験に支えられ、剛先生と潤先生のカラーも取り入れた次世代の歯科医院が今、育ちつつある。

診療室も兼ねたオペ室



セミナー室

滅菌室

CT

Profile

佐藤 誠 先生

- 1979年 東北大学歯学部卒業 ●1983年 佐藤誠歯科医院開設 ●1988～1999年 岩手県支払基金・国保連審査員
- 1997～2006年 岩手県歯科医師会理事・常務理事 ●2000年～現在 日本歯科用レーザー学会理事・評議員

佐藤 潤 先生

- 2006年 奥羽大学歯学部卒業 ●2007年 奥羽大学歯学部附属病院臨床研修終了 同大歯学部附属病院歯科麻酔科所属 ●2009年 日本歯科麻酔学会認定医取得 ●2010年 佐藤誠歯科医院に勤務 ●2012年 院長に就任

佐藤 剛 先生

- 2005年 岩手医科大学歯学部卒業 ●2006年 岩手医科大学附属病院、秋田の提携歯科医院で研修
- 2007年 東村山インプラントセンター さくら歯科クリニック勤務 ●2010年 東村山インプラントセンター院長
- 2012年 佐藤誠歯科医院に勤務 医療法人白翠会 理事長に就任

医療法人白翠会
佐藤誠歯科医院

住所：岩手県盛岡市西青山2-19-31 TEL:019-645-3330
HP:<http://www.implant-iwate.jp/>

SASAKI

お問い合わせ・ご意見:「C&C」事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

Vol.29 December 2012 発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。